リポート

こども園をつくる

―文京区立お茶の水女子大学こども園の記録―

Vol.1／設立までの経緯、開園までの取り組み

宮里暁美

二〇一六年四月一日、お茶の水女子大学の中に、新しく、認定こども園が誕生しました。大学内にある他の附属学校園とは違い、「文京区立」のこども園です。その設立の経緯や期待される役割、課題等について、まとめることとします。

1　区と大学「子育て支援の推進に関する基本協定」を結ぶ

東京都文京区とお茶の水女子大学は、二〇〇四年十一月二十二日に「相互協力に関する協定」を結び、以来さまざまな連携事業を行ってきました。

そして、二〇一四年九月二十九日に、文京区とお茶の水女子大学との間で「子育て支援の推進に関する基本協定」が結ばれ、認定こども園を設立することを発表しました。

以下に発表会見資料の一部を紹介します。

（二〇一四年九月二十九日　文京区・お茶の水女子大学合同記者会見資料より一部抜粋）

宮里暁美（みやさとあけみ）
お茶の水女子大学附属幼稚園副園長、十文字学園女子大学教授を経て、文京区立お茶の水女子大学こども園設立後、園長に就任。

〈計画概要〉

文京区と国立大学法人お茶の水女子大学は、平成二十八年四月一日（予定）に認可保育所に幼稚園機能を備えた区立の保育所型認定こども園を大学の敷地内に開設します。

開設にあたっては、区と大学との間で子育て支援の推進に関する協定書を締結した上で、施設の建設等、必要な準備を進めていくものとします。

なお、当該認定こども園の運営については、区が大学に業務全般を委託して実施します。

〈お茶の水女子大学における教育研究活動としての取組み〉

お茶の水女子大学は、平成二十七年に創立百四十周年を迎えます。本学は、明治九年創設の日本で最も古い幼稚園を有し、わが国における幼児教育・保育に関する教育研究拠点として、研究資源を集積するとともに人材育成に尽力してまいりました。

お茶の水女子大学にとって、認定こども園は、幼児教育・保育に関する教育研究の場です。私たちは、新たに、誕生から死までの生涯発達を見据えた〇歳児からの教育カリキュラムを開発するなど実践研究を行うとともに、望ましい教育環境を探求し、その研究成果を発信してまいります。将来的には、幼児教育と保育に関わる教職員や行政担当者、子育て支援に関心を有する方々のネットワーク拠点として、幼児教育政策の立案に貢献できることを目指しています。

〈文京区における待機児童の状況について〉

文京区では、喫緊の課題である保育所待機児童の解消を図るため、私立認可保育所の整備を中心に平成二十二年度からの五年間で一〇〇〇人を上回る保育サービス量の拡充を行ってきたところです。

しかしながら、未就学児童人口のさらなる増加や保育所申込率の上昇に伴い、新たな保

育ニーズが生じる状況となっており、平成二十六年四月現在で保育所待機児童数は一〇四人となり、特に〇歳、一歳の待機児童が急増しています。

こうした状況の中、区では、待機児童解消の緊急対策として、国立大学法人お茶の水女子大学と協働して、大学の敷地を活用することにより、保育所型認定こども園の整備を進めることとしました。

2 「こども園開設準備室」を設置し、準備を進める

二〇〇四年四月に、国立大学が国立大学法人となり、六年ごとに中期目標・中期計画を提出し、目標に向かって計画を実施し報告するようになりました。お茶の水女子大学では、二〇一三年度に第二期中期目標・中期計画の一部変更を文部科学省に認可申請し承認され、こども園の開設準備を盛り込み、二〇一五年四月からは「こども園開設準備室」を設置し、開園に向けてさまざまな準備を行ってきました。準備室の会議は、ワーキングが週一回、室会議が月一回程度開かれ、以下のような準備をしました。

(1) こども園・保育園の視察

二〇一四年九～十一月に、準備室ワーキングのメンバーで視察を行いました。訪問先は、学校法人栄光学園認定こども園オリーブの木（福島）、認定こども園ゆうゆうのもり幼保園（神奈川）、新宿区立愛日こども園（東京）、関東学院六浦こども園（神奈川）、バオバブ保育園（神奈川）、岩屋保育園（京都）です。

各園では、スペースに余裕があり、短時間児、中時間児、長時間児という多様なあり方の子どもたちが共に過ごすための工夫や配慮がなされていました。「食」を大切にしている園が多く、「見える厨房」「自由な雰囲気のランチルーム」に大いに刺激を受けました。玄関や門からのアプローチに心が配られており、

そこに園の文化や心もちが表れていると感じました。特に重要だと思ったのは、限られたスペースの中に保育者のスペースがしっかり確保されていたことです。これは保育の質にかかわる重要な点である、と確信しました。

視察を通して感じたことをワーキングの中で確認し合い、自分たちの園づくりにつなげていこうと夢を広げました。

(2) こども園の施設設備に関する検討と提案

視察を重ねると同時に、ワーキングの中では園舎のイメージを出し合う時間を多く持ちました。準備室のメンバーでもある元岡展久准教授（お茶の水女子大学基幹研究院）の協力を得て、子どもたちが豊かに過ごす空間について夢を広げていきました。

接続する年齢に注目し、育ち合いを促進する。一階に〇～三歳の保育室、二階に四歳・五歳の保育室と多目的スペース、そして厨房を作るという、斬新な案も飛び出しました。屋上には広い材料室や研修室ができたらいい、という案もありました。視察で見た各園の姿を思い描きながら、「子どもの具体的な動きを考えよう」「『できること』と狭めてしまうのではなく『したいこと』と夢を広げることが大事」という考えのもと、プランを練りました。

予算上の課題等が多くあり、計画は何度も修正され、現在の形に落ち着きました。最初に思い描いたものとはずいぶん違ってきたようにも思えますが、「子どもたちがのびのびと過ごせるように」「居心地よく過ごせるように」という思いは一貫して流れています。

(3) 保育・教育活動に関する検討と提案

こども園という新しい乳幼児期の教育施設としてどのような理念を持つかということを検討し、「つながる保育」という考えが生まれました。以下に挙げた、こども園の教育・保育の理念は、今後実際に保育を積み重ねていく中で、何度も見直され深められていくもの

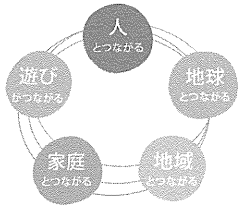
であると考えます。現時点で考えられている理念を紹介します。

【こども園の教育・保育の理念】

乳幼児時期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っています。こども園では、豊かな体験や遊び、さまざまな人とのかかわりを通して、子どもたちが自分らしく育っていけるよう保育の日々を紡いでいきます。発達段階や個人差に応じた援助を重ねる中で、以下のような子どもたちを育てていきます。

〈つながる保育〉

○歳から小学校入学までの時期を共に過ごす、こども園の生活。キーワードは「つながる」です。「人・遊び・地球・家庭・地域」。この五つのつながりを大切にして、子どもたちが豊かに育つ保育を構築していきます。



〈保育目標〉

○食べる、眠る、遊ぶ生活を過ごし、心もからだも健康な子ども

○さまざまな人とのかかわりを重ね、自分も友達も大切にする子ども

○「やってみたい」という気持ちを持ち、じっくり遊ぶ子ども

○自然や文化との出会いの中で、心を動かし表現する子ども

〈こども園の使命〉

○区民への質の高い保育サービス・幼児教育の提供

○こども園の保育内容についての研究開発と発信

○実習やインターンシップの場としての大学生の受け入れ

3　園児募集に向けての準備を進め、入園予定者が決定する

二〇一五年十月十一日（日）、お茶の水女子大学の共通講義棟二号館一〇一室・一〇二室を会場として、こども園の説明会を行いました。当初は15時、18時の二回行う予定でしたが、予想を超えた多くの参加者が集まったため、急きょ回数を増やし、計三回行いました。

説明会の内容は、①認定こども園についての説明、②研究園であることに対する理解と協力依頼、③本園の概要（建物や園庭の状況・保育時間や預かり保育のこと等）、④今後の手順（入園申し込み等）、の四点でした。説明会に多数の参加者が集まったことからも、新設されるこども園への関心と期待の高さがうかがえ、責任の重大さを実感しました。

二〇一五年十一月には1号認定（幼稚園）の入園申込を受付。定員を超えたため、抽選により入園予定者を決定しました。

二〇一六年二月には2号認定・3号認定（保育園）の入園者が決定し、三月には全員の入園前の面接と健康診断を終えました。

4　こども園園舎建設及び大学キャンパス内整備が行われる

二〇一五年十月中旬より、急ピッチで園舎建築が始まりました。また、大学本館中庭と学生会館前緑地を園庭として使用できるようにするための工事も開始されました。

大学南門横に建築中の園舎は、軽量鉄骨造二階建て、延べ床面積は534㎡です。十年間のリース契約でのプレハブ建築のため構造上の制約が多くありましたが、床材は木の素材にし、造作家具も木調にする等工夫し、家庭的

▲工事中の様子（2階保育室全体）

な温かみのある雰囲気になるようにしました。

5　新しい園を共に創り上げる仲間が集結する

二〇一五年九月より、常勤職員の公募を開始しました。続けて非常勤職員も公募し、十二月までには、全職員の採用が決定しました。職員の内訳は、園長（大学教員兼務）、施設長、主任保育士、看護士、栄養士各一名、保育士十一名、保育補佐員九名、事務補佐員一名、用務員一名、調理員三名（委託業者）です。全職員三十名という大所帯となりました。

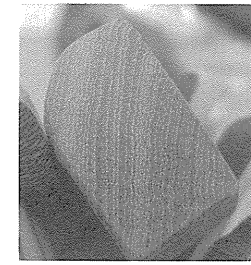
二〇一六年一月より三回、常勤職員の打ち合わせ会を開催、三月は非常勤職員も参加し全員で開園準備を行い、四月一日の開園へ向けて、力と気持ちを合わせていきました。

二〇一六年三月六日には、刑部育子准教授（お茶の水女子大学基幹研究院）の企画による「子どもの環境を考える　～木のワークショップを通して～」が、開園前のこども園を会場として開かれました。

講師は、群馬県在住の建築家　福島直氏とその仲間たち（ＡＲＩＧＡＴＯ　ＣＯＭＰＡＮＹ㈱）。「子どもたちの原風景になりたい」という願いを持ち、木・土・石・しっくい・植物などの大地の匂いのする素材を使って子どものスペースを作っているグループです。参加者は、こども園・附属幼稚園・いずみナーサリーの保育者、大学教員、学生等約四十名。

午前中は、木を磨くワーク。「固い木ほど磨けば光る」という福島氏の言葉が参加者の背中を押しました。ザラザラしていた木片の表面は、紙やすりで時間をかけて磨くうちに次第に滑らかになっていき、そのことを実感することでいよいよ磨きに力がこもりました。

▲木を磨きながら会話が弾む


▲木目が浮き出た木片

木を磨いた時間は、まさに木と対話する時間でした。自分の手と体を動かし対話するという姿勢は、環境とかかわることの原点であるということを実感することができました。

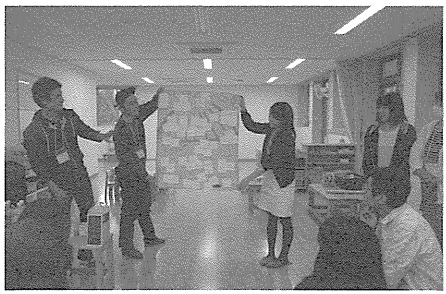
午後は、こども園で子どもたちがどのように過ごすだろうかということを考えるワークを行いました。

子どもの視点になって園内を歩き、いろいろな場所に入り込み感じ取る時間を持ち、そこで気付いたこと、感じたことを付箋に書き、それを大きな紙に貼っていきました。それぞれに感じたことを出し合い共有しながら、環境とのかかわりの中で子どもたちに体験させたいことについて検討し、最後にグループごとに発表をしました。「のぼる」「滑る」「入り込む」「走り回る」等の動詞を出し合う、フワフワ・凸凹等の感触や窓から差し込む光に着目するなど、さまざまな視点が出され、とても興味深いものでした。

▲園内を歩き回る

モノにかかわる・感じる・表す・多様な仲間と語り合うという体験は「共に創るこども園」のスタートにふさわしいものでした。

このワークは継続します。次回は、子どもたちが生活を始めた六月頃に行う予定です。


▲各グループの語り合いを共有

種　別	保育所型認定こども園						
名　称	文京区立お茶の水女子大学こども園						
所在地	東京都文京区大塚二丁目１番１号						
電話番号・ＦＡＸ	０３－５９７８－５１２７						
開設年月日	平成２８年４月１日						
利用定員（年齢別）		０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児
	１号子ども	－	－	－	11 人	11 人	11 人
	２号子ども	－	－	－	11 人	11 人	11 人
	３号子ども	６人	10 人	11 人	－	－	－
取扱う保育事業	預かり保育、延長保育						

▲園の概要（平成28年度は開設年度のため、５歳児の募集なし）

敷地面積		４４５㎡
園　舎	構　造	軽量鉄骨造　二階建て
	延床面積	５３４㎡
施設設備	１階保育室	０歳児保育室、１・２歳児保育室
	２階保育室	３・４・５歳児保育室、多目的室、絵本コーナー
	調理室	調乳室は０歳児保育室内に設置
	事務室	保健室を兼ねる
設備の種類		冷暖房
園　庭		こども園内園庭・大学内広場・本館中庭

▲施設設備の概要

園　長	１人　常勤（大学兼務）
施設長	１人　常勤
主任保育士	１人　常勤
保育士	11 人　常勤
保育補佐員	９人　非常勤
看護士	１人　常勤
栄養士	１人　常勤
事務補佐員	１人　非常勤
用務員	１人　非常勤
調理員	３人　委託業者

◀職員体制（平成28年4月1日現在）